



# 国立がん研究センターバイオバンク (National Cancer Center Biobank)

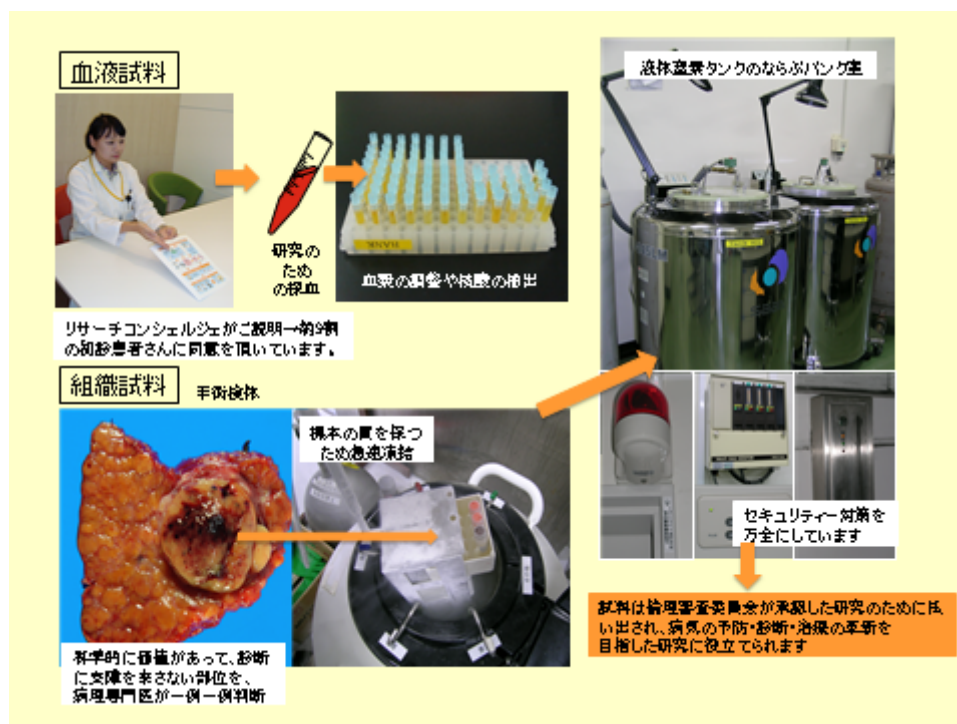
## ■ バイオバンクは研究の大切な基盤です

患者さんから提供して頂いた血液や組織などの試料を、整理して蓄えておく仕組みを「バイオバンク」といいます。研究者は、国が定めた指針を守り、倫理審査委員会の審査・承認を受けたうえで、バイオバンクから血液や組織を受けとって、様々な研究を行うことができます。この2年間に、バイオバンクの組織試料を使って行われた研究から、119編の英文医学論文が生まれました。このように、血液や組織の遺伝子や蛋白質と、病気の程度や、お薬の効きやすさを研究することで、新しい発見がたくさんでき、より効果の高い治療や、精度の高い診断ができるようになることが期待されています。

## ■ 国立がん研究センターでは、2011年5月より、リサーチ・コンシェルジェを設置し、新しい制度を始めました

当センターでは、2002年から、患者さんに検査などに使われた血液の残りや、手術で摘出され病理診断が行われたあとの組織の残りを、研究に使わせて頂くことをお願いしてきました。さらに、2011年5月からはリサーチ・コンシェルジェと名付けた専任のスタッフが、個人の遺伝的な違いを見つける研究の可能性も含めて、初診患者さんお一人お一人にお願いの内容や、医学研究の大切さなどをご説明したうえで、ご協力をお願いしています。協力いただける患者さんからは、研究用に1回だけ14mL(16歳以上の場合)の採血をお願いしています。それ以外に患者さんへの新たな負担はありません。

現在までに約9割の患者さんより研究協力について同意をいただいております。もちろん研究協力への同意は患者さんの自由な意思に基づき行われるため、同意の有無が、診療に影響することはありません。皆様のご理解とご協力をお願い致します。



国立がん研究センターバイオバンク検体採取の流れ